

あかるく
なかよく
たくましく



学校だより

武岡台養護学校 令和4年11月29日(火)

学校ホームページアドレス

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ss/Takeokadai-H/top.html>

『子育て四訓』の教え

- 一 乳児は しっかり肌を離すな
- 一 幼児は 肌を離せ手を離すな
- 一 少年は 手を離せ目を離すな
- 一 青年は 目を離せ心を離すな

教頭 満尾 泰浩

子育て四訓は山口県の教育者緒方甫という人の言葉で、教育者としての経験から生み出した言葉だそうです。



一 乳児はしっかり肌を離すな

基本的信頼感をつくる時期。たくさん抱きしめて、愛情や信頼をしっかり感じさせて、人を信じる力(=自分を信じる力)を育む時。

一 幼児は肌を離せ手を離すな

少しずつ自立(自分でしたい)する時期。まだまだ手助けが必要ではあるものの、しっかりとした信頼感が育まれているからこそ、外界のたくさんのかげに興味を示す時。

一 少年は手を離せ目を離すな

やりたいを信じて見守りの時期。ある意味、親として一番難しいようにも思いますが、見守られた環境で、子供を信じて、子供のやりたいことに挑戦させたい時。

一 青年は目を離せ心を離すな

子供が成長して自立して社会参加する時期。親元を離れて暮らせば、自然と目は離れますが、親子の心というのは離れないもの。

子供の成長に合わせて、親(教師)の在り方も変わっていかねばならないのだということを感じます。手を貸し過ぎず、じっと見守り続けるのは、なかなかの忍耐です。見守る力は、相手のありのままを受け入れられる力とも言えるのではないのでしょうか。個に応じた子育て(支援)は、必ずしも付きっきりで手厚く一つ一つを丁寧に支援するだけではありません。子供一人一人の「やりたい」という主体性、自立への可能性を最大限発揮できるような子育て(支援・見守り)が大切です。「この子に」「この時期に」「この場面で」どのような支援が必要か、保護者と学校がみんなで語り合うことから始めたいものです。子育ての大変(大きく変わる)を楽しみながら…。

〈 小学部 〉



小学部5年生は、9月13日～14日にかけて、霧島自然ふれあいセンターにて宿泊学習を実施しました。1日目は、霧島乗馬クラブでの乗馬・餌やり体験を行いました。本物の馬に間近で接し、大きさに驚く様子も見られましたが、温もりや揺れを全身で感じながら馬との触れ合いを楽しむことができ、有意義な体験となりました。2日目は、レザークラフトとガラス工芸の2つのグループに分かれて、創作活動を行いました。レザークラフトグループは、レザーに好きな刻印を選んで刻んだり、ペンで模様を描いたりしてキーホルダーを作りました。ガラスグループは、事前に準備していた下絵をもとに、コップの表面を彫刻機で削って模様や絵を描いてオリジナルのコップを作りました。どちらのグループも、初めて使う道具に興味津々の様子で、作成の手順もしっかりと把握して夢中になって制作に取り組む姿が印象的でした。

入浴や寝具の準備や片付け、部屋の清掃なども事前学習で学んだことを生かして、自分でやろうと頑張っていました。また、公共の場でのマナーや集団行動の決まりについても実践を通して確認することができ、より学びを深めることができたように感じます。これからも、宿泊学習の経験を生かして、様々なことに自信をもって前向きに取り組んでほしいと思います。

(小学部第5学年 学年主任 林 知子)



〈 中学部 〉



9月20日と21日の1泊2日、台風やコロナ感染を心配しましたが、2年生にとって大きな行事である宿泊学習を無事に実施することができました。秋の気配を感じる南薩少年自然の家で、カヌーをしたり、どんぐりなどを拾いながら自然散策をしたりするなど、充実した楽しい時間を過ごすことができました。また、みんなで、寝食を共にして、学校では体験できない貴重な体験をすることができました。2日間の中で、生徒たちのキラリ輝く姿がたくさんありました。リーダー係として、意欲的に、整列の号令を掛けたり、会を進行したりすることができました。寝具係として、みんなのために、シーツの枚数を数えて、各部屋へ持って

いくことができました。それぞれに任された係の仕事を頑張ることができました。その他にも、入浴の準備、食事の片付け等、自分でできることを自分で頑張っている姿、友達と一緒にシーツを準備したり、荷物を運んだりして協力する姿などなど。また、1泊ではありませんが、家族と離れて生活することで、家族への感謝や愛を改めて感じた生徒もいたようでした。今後も、今回の経験を家庭生活や学校生活で、生かして行ってほしいです。

(中学部第2学年 学年主任 村尾 清美)



〈 高等部 〉



高等部2年生は、10月25日～27日にかけて大隅半島を中心に2泊3日の修学旅行に行き、3日間で7か所の観光地を巡りました。

イルカランドでは、初めて触れるイルカに恐る恐る手を出しながらも「思ったより固い！」と感動。自衛隊鹿屋航空基地では、戦時中に自分たちと同じ17才の若者が特攻で命を落としたことに驚き、興味深く見学しました。JAXA内之浦宇宙空間観測所では、10月12日にイプシロンロケットが打ち上げられた場所を間近で見学し「ロケットを作るのにどのくらい時間がかかるの？」など多くの質問が出ました。道の駅たるみずはまびらでは、2階の展望テラスから壮観な桜島を眺め、買物や

海を見ながらカフェタイムを楽しみました。

ホテルではゆっくり食事を取り、蛇口をひねれば出てくる「美人の湯」に大満足。温泉の後はホテルの浴衣を着て、男子会や女子会も行われたとか... 楽しい夜を過ごしました。

今回の修学旅行では、これまでリモートでしか会えなかった南部支援教室の仲間とも交流を深め、実際に会うことの素晴らしさを感じました。残念ながら参加できなかった生徒も、事前・事後学習を含め、全員が改めて郷土鹿児島について学んだ有意義な時間となり、実際の体験や、興味・関心をもったことについて調べることで学びが深まり、人生が豊かになることを知る良い機会になりました。この経験をこれからの人生に生かしてほしいと思います。

(高等部第2学年 学年主任 前田 小百合)

